

無調音楽を中心とした音楽の分析に用いられる PC セット理論について紹介するシリーズの第 5 回目は、PC セットどうしの間
にみられるさまざまな関係について概観する。

PC セット理論を学びかけた者はともすると、セットの名称を見出しただけで満足してしまいがちである。少し進んで学んだ者
でさえも、セット間の移置関係と転回関係、そしてセットクラスの名前の理解までにとどまりがちである。たしかにそこまで理
解することでみえてくる音楽のエッセンスもあるが、見いだされたさまざまなセットどうし、あるいはセットクラスどうしの間
に、どのような関係があるのか、近い関係なのか、遠い関係なのか、それはどういう意味においてか、などといったことにつ
いて詳しく考察を加えていくことで、はじめて見えてくる、より音楽的な意味というものがあるのもまた確かである。古典音楽の
分析に例えて言うならば、和音 1 つ 1 つにローマ数字を付してそれで満足してしまう初学者もいるが、このローマ数字で分析さ
れた和音どうしの関係性や和音から和音への進行に着目していくことで、より音楽的な意味が理解出来ることに似ているかもし
れない。無調音楽においても、さまざまな PC セットどうしが無秩序に並んでいるわけではない。そこにはなんらかの関係性が
あり、曲によっては何らかの法則に従っていることさえあるのであり、それこそが音楽的に重要な意味を持つのである。

本発表では、セット間のさまざまな関係性に着目し、それぞれの意味を解明していく。特に、セット間の共通音の数による関
係について、詳細に検討する。この際、個々のセットにおける音程ベクターとの関連に触れていく。また移置レベルや転回レ
ベルが共通音数にどのような影響を及ぼすのかについても明らかにしていく。さらに「Z 関係」、「包含関係」、「補完関係」とそれ
ぞれ呼ばれる関係性についても、時間の許す限り触れていきたい。